

植物防疫講座

害虫飼育法 アブラムシ類

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 みつ なが たか ゆき
植物防疫研究部門 光 永 貴 之

はじめに

アブラムシ類は、ほかの害虫と比べて多くの種類が存在する（宗林，2002）ため、分類群全体ではほとんどの作物を食害することが知られている。特に少量多品目栽培条件では、それぞれの作物ごとに違った種類のアブラムシが発生するため、防除が煩雑になりやすい（表-1）。その一方で、ほとんどのアブラムシ類は狭食性であり、限られた作物のみを食害する。また、広食性のアブラムシであっても（例えばワタアブラムシなど）、実際にはそれぞれの作物に適合したバイオタイプが知られており（北村・柏尾，2001）、寄主植物に適合していないバイオタイプでは生存率や増殖率などが著しく低下する。

アブラムシ類の飼育法としてソラマメの芽出し苗を用いた管理法が知られており、これは多くの種を簡便・省スペースで飼育できる（村井，1991）。しかし、ほとんどの場合、アブラムシ類を飼育する目的は薬剤抵抗性や天敵活性などの調査試験研究のための供試虫の維持・確保であろう。したがって、ただ単に系統を維持するというよりは、その系統の野外での生態学的特性を可能な限

り維持することが重要となる。また、試験研究に供するためには個体間のばらつきを可能な限り小さくすることが必要であり、これを意識した飼育管理技術が求められる。そこで本稿では、新農薬実用化試験などの調査試験研究を前提としたアブラムシ類の飼育管理等について解説する。

I アブラムシ類の採集

ほとんどのアブラムシ類はその寄主植物と密接な関係があるため、採集したいアブラムシ類は寄主植物の圃場で探せば良い。アブラムシ類を採集する際に最も重要なのは時期であり、多くのアブラムシ類は春～初夏に増殖するため、この時期が最適である。次の適期は秋の中ごろであるが、これは年による変動が大きい。例えば、茨城県つくば市では毎年4月中旬～5月初旬にマメ類でエンドウヒゲナガアブラムシが発生するが、6月までには見られなくなる。その後、9月下旬ごろに再び発生する場合もあるが、全く見られない年も多い。同様の季節消長はネギアブラムシなどでも知られている。

アブラムシのコロニーはその消長が激しく、ある時点

表-1 作物で問題となるアブラムシ類とその寄主植物

アブラムシ類	代表的な寄主植物
ワタアブラムシ	ナス科・ウリ科・バラ科作物など
マメアブラムシ	マメ科作物
モモアカアブラムシ	ナス科・ウリ科・アブラナ科作物、ホウレンソウなど
ジャガイモヒゲナガアブラムシ	ナス科・ウリ科・マメ科作物
チューリップヒゲナガアブラムシ	ナス科作物など
エンドウヒゲナガアブラムシ	マメ科作物
タイワンヒゲナガアブラムシ	レタスなど
キクヒメヒゲナガアブラムシ	シュンギクなど
ネギアブラムシ	ネギ類・ニラ
イチゴケナガアブラムシ	イチゴ
イチゴクギケアブラムシ	イチゴ
ダイコンアブラムシ	アブラナ科作物
ニセダイコンアブラムシ	アブラナ科作物

The Rearing Method of Aphids on Vegetables. By Takayuki
MITSUNAGA

（キーワード：アブラムシ，累代飼育，日齢管理，比較試験）